



9月末の人口		9月の交通事故		9月の火災状況	
人口	421,162	発生件数	578	発生件数	10
男	206,008	死傷者	338	建物	7
女	215,155	死者	1	損害額	174万円
世帯数	111,542	傷者	387		

モノレール休止案にご理解を



市街地を見おろしながら走るモノレール

市は、今年二月に出た「姫路市交通事業再建対策審議会」の答申に基づき、モノレールを休止する方針を決め、所要の予算を市議会に提出しました。市議会では、これを「交通事業再建対策特別委員会」に回され、現在、継続審議されています。市がモノレールを休止しようとする主な理由は、毎年度の経常費で出る千五百万円以上の赤字は市民に大きな損失を与えている、と考えるからです。

市議会特別委員会では、①モノレールは有用ではないか②運営次第で赤字はなくなるのではないかなどの異論があつて継続審議中ですが、次の十二月定例会で結論が出されることになっています。そこで、わかりやすい対話形式でモノレールの実情を市民の皆さんに訴え、市の休止の方針と意図を説明して、皆さんの正しいご理解を得たいと思います。(広報課)

一回運転で八千円の赤字

経常欠損、年千五百万円こす

なぜ休止するか

A 市はモノレールを休止四十人に対して、乗客の平均はわずか十一人に過ぎません。一回の運行に要する整備人件費の予算を市議会に提案していますが、なぜ休止するのですか。

市 モノレール事業は、経常費だけで四十五年度は約千六百万円、四十六年度は約千五百万円の欠損になっています。モノレールは現在、姫路駅―手柄山間を二両連結で一日二十四回(往復十二回)運行しています。一回の運行は定員二百

が出て、やむを得ないでしよう。しかし、いまのモノレールの利用状況は観光客のため、しかも利用者の七割までが市外からの観光客です。現在、乗客一人につき、八百十三円の費用をかけて百円の運賃をいただいているのですが、現状では市民の大きな負担で、外来の方に「出血サービス」しているわけです。

A 観光客を手柄山に誘致することも必要ではないですか。

市 ええ、それは必要です。市も誘致に努めています。そして、大勢の観光客が観光バスで来てくれていますが、市内のお客でも手柄山へは、タクシーに乗り合せて行けばモノレールより割安ですから、モノレールがなくても、観光客の誘致には差し支えないと思います。

B 年間千五、六百万円の赤字というのですが、これは経常費だけの欠損ですか。

市 そうです。四十六年度でいいますと、運賃収入などが二千二百五十万円、運転手、車掌などの人件費、電力代などが三千七百七十万円ですから、経常費だけで差し引き千五百二十万円の欠損です。

B 一般に企業は、設備資本を投下して、これを償却するだけでなく、利潤を生まなければなりません。モノレールは公営ですから、利潤を生まなくてもよいでしょうか、いまのモノレールは元本が返つてこないだけでなく、損失を生じているのです。損失を生じているのです。設備は古くなると思いませんか。

市 そうです。設備は古くなると思いませんか。毎年度、償却費を積み立てなければなりません。また、借金で建設していますから、その金利も払わなければなりません。しかし、経常費だけで赤字ですから、資本再生産のための償却費

などの資本支出は、当然まかなえないわけです。これはやむを得ませんので、市議会の承認を得て、昭和四十二年十二月に立てた「姫路市財政再建計画」に従つて、一般会計で負担することになっています。しかし、運行上の収支だけは、せめてトントンに持つて行くよう努めてきました。数年間の実績は経常費すら大きな赤字になっています。人件費、物価は毎年上がりますので、この経常費の赤字は毎年増えています。これでは市民に損失だけを与えることになってしまいますので、この際、モノレールは休止すべきだと思つています。

41～46年度の営業実績

年度	41	42	43	44	45	46
運賃収入	32,918	21,856	21,339	22,034	17,006	19,146
その他収入	2,462	1,402	1,350	26,055	1,219	3,336
(収入計) ①	35,380	23,258	22,689	48,089	18,225	22,482
人件費	22,162	25,285	21,325	19,930	23,936	24,342
(収入に対する人件費の割合)	(62.64)%	(108.72)%	(93.99)%	(41.44)%	(131.34)%	(108.27)%
車両運行費	2,786	4,363	4,919	27,806	4,409	8,482
需用費	5,120	7,013	3,877	4,927	5,969	4,886
小計(運行に必要な経費)	30,068	36,661	30,121	52,663	34,314	37,710
差引(運行上の損益) ②	5,312	△13,403	△7,432	△4,574	△16,089	△15,228
減価償却費	35,295	55,240	48,314	48,074	48,058	48,252
営業外費用	28,319	50,152	68,353	83,750	94,539	97,829
(支出計) ③	93,682	142,053	146,788	184,487	176,911	183,791
損益 ④	△58,302	△118,795	△124,099	△136,398	△158,686	△161,309
累積欠損金						757,586

モノレール休止で小学校が一つ建つ

A 年間千五、六百万円の赤字だとしても、市の大きな財政からいえば、わずかの負担であると思えます。せっかくできたモノレールですから、動かし続けたいと思つています。さきにもいいましたように、モノレールは市民のために役立っていないと思つています。それなのに、運行

を続けて赤字を増やしていくことは、市民に損失を与えるだけです。

大きな市財政からいえば、千五、六百万円はわずかの額と思われ、かまいません。が、実はこれは大きな金額なのです。市の一般会計は、四十六年度決算では百九十六億円で、人件費、物件費、義務費などの経常的経

例えば、小学校の校舎建設は、標準事業費の二分の一が国庫補助、残額の一〇〇分の七五が起債、一〇〇分の二五が市一般財源負担です。純財源の千五、六百万円で、その八倍の一億二千八百万円の事業ができるわけです。文部省十八標準学級(学級数十八、児童数八百十人)の小学校建設費は一億一千万円ですから、モノレールの休止によって一年でこの小学校が一つ建つこととなります。

路線延長は大工事でムリ

運賃値下げは赤字ふやす

赤字はなくせぬか

A 運行収支で欠損が出る
そうだが、工夫、努力
次第で解消できるのでは
ありませんか。一つは、
運賃の百円は高いと思
います。値下げすれば利
用者も増え、収支が償
うのはありませんか。

市 これまでに収入増をは
かるため、半額割引を二
回やりました。一回目は、開
通一周年を記念して、四十
二年三月から同年六月まで
の四カ月間実施しました。
このときは乗客数こそ一
九倍になりましたが、運賃
が半額のため、収入は逆に

減っています。二回目は四
十五年八月一日から二十五
日間実施しましたが、乗客
数は一・三倍で、収入は大
きく減りました。ですから、
運賃を下げて経常費の赤
字は消えず、かえって欠損
を増やすことになりまし
す。

A それでは第三案として、
厚生会館まで延ばしたら
どうですか。

市 厚生会館の近くまで延
長するには、約二億五千万
円の建設費がかかります。
投下資本の年度回収を含め、
この延長分を運営するの
に年間約三千万円の費用が必
要です。現行の姫路駅一
手間、古木、植木、あ
らびは花火大会、写生大会
などを開催し、ポスター、
ラジオ・テレビスポットな
どで活発にPRして、乗客
を増やせば、赤字を大幅
に増やす結果になるで
しょう。

A 手柄山に施設を増やせ
ないとしても、もっと催
し物をやれば乗客は増え
るのではないですか。

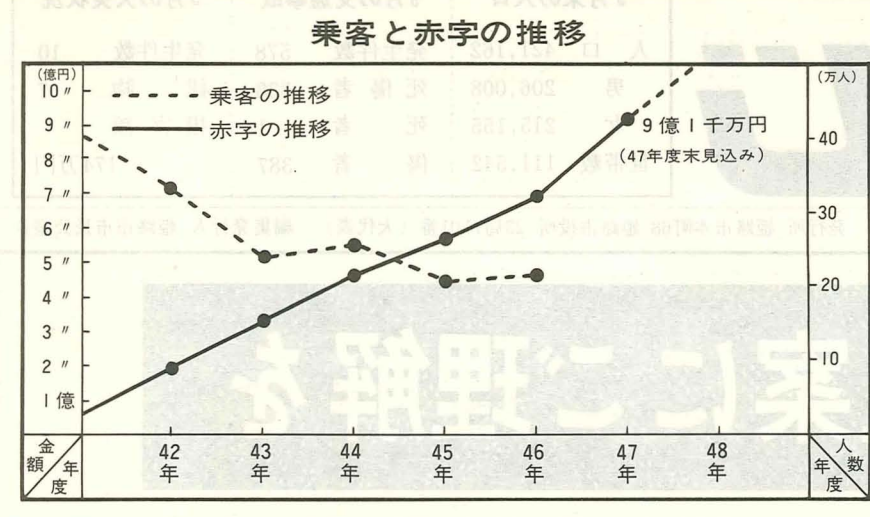
市 営業を始めてから、手
柄山では毎年、盆栽展、名
だと思ひます。また、手柄
山で大会の催し物をた
びたび行なうには多額の経
費を要しますので、これま
た欠損増につながること
になりますね。

A 文化センターの開館で
乗客は増えていませんか。

市 文化センターへ来る人
に看板、ポスター、案内標
識の掲示、来場者への場内
放送などモノレール利用を
呼びかけ、手柄山駅から文
化センターに至る道に夜間
照明灯を設け、運転時間も
短縮しました。

A 経常経費の削減はどう
なっていますか。

市 当初三十九人いた職員
を現在十八人に減らし、経
常経費の六五％を占める人
件費をギリギリの線まで節



遠方から曲げてくるとなる
と、高尾線(姫路駅から大
将軍橋までの東西道路)の
上に橋脚を立てなければな
りませんから、大工事とな
ります。また、噴水の下の
駅地下街になっていきますか
ら、ここに橋脚を立て、モ
ノレール駅をつくることも
不可能です。

A 第四案ですが、手柄山
公園にもっといろいろの
施設をつくって、乗客を
増やしてはどうですか。

市 手柄山公園は、もっと
緑と花をふやして立派な公
園にしたい、と考えていま
す。しかし、都市公園法の
制限があつて、建物施設は
むやみにつくれませんし、
ゴーカートのある所や婦人
会館の北の山の他は、これ
以上施設はつくりません。

市 文化センターの近くに
の手柄山に移設に必要な約
三万坪の土地を確保するこ
とはできませんので、この
議論もあまり意味がありま
せん。

市 文化センターへ来る人
に看板、ポスター、案内標
識の掲示、来場者への場内
放送などモノレール利用を
呼びかけ、手柄山駅から文
化センターに至る道に夜間
照明灯を設け、運転時間も
短縮しました。

A 経常経費の削減はどう
なっていますか。

市 当初三十九人いた職員
を現在十八人に減らし、経
常経費の六五％を占める人
件費をギリギリの線まで節

市 そのままでは利用でき
ないと思います。第一に、
将来の都市交通としてのモ
ノレールは、単線往復では
通勤通学時などの大量輸送

が生じます。また、車両修
繕費の削減は、安全運行面
で法の規制があり、その他
で削減しています。

廃止ではなく「休止」

将来の可能性のこす

「有用論」を考える

A 千葉市や北九州市では、
将来の都市交通機関とし
てモノレールを考えてい
ると聞いていますし、国
もモノレール建設の補助
を検討しているというこ
とです。モノレールが再

認識されつつあるときに、
休止するのは不当では
ありませんか。

市 都市交通機関としての
モノレールは、市でも十分
検討する必要があります。
しかし、都市交通として

よいのか。

市 そのままでは利用でき
ないと思います。第一に、
将来の都市交通としてのモ
ノレールは、単線往復では
通勤通学時などの大量輸送

ギリギリまで経費節減

答申尊重で民意を生かす

審議会結論の要点

B モノレールは廃止して
はいけません。また、車両修
繕費の削減は、安全運行面
で法の規制があり、その他
で削減しています。

市 モノレールを廃止しよ
うとする、撤去するの
多額のお金がかかりますし、
全廃の場合は約九億円の起
債残額を一時に返さなけれ
ばなりません。また、将来
の活用の可能性もなくなり
しまうことになりまし
す。市は、この答申に従つて、
市は休止案を取るわけ
です。

B モノレール対策につ
いては審議会が設けられ
、答申がありましたね。

市 モノレールの取り扱
いは、市民代表や学識経験
者から意見を聞き、その
答申に基づいて進めると
いうのが、市の基本方針で
す。このため、昭和四十二
年八月に「姫路市モノレ
ール対策審議会」を設置し、
モノレールの存廃を諮問し
ましたが、同年十月に審議
会から答申がありました。

その要点は、①あらゆる
角度から検討したが、存続
の含みを持って、休止
はすなわち休業で、モノレ
ール路線の廃止ではありませ
んから、将来、あらゆる点
から検討を重ね、現路線の活
用が必要となる場合は、それ
に合わせた措置を取
っているわけ
です。

B そうすると、都市交通
としてのモノレールの有用
性の問題と、現モノレール
をどうするかという赤字
の問題は全く別個の問題
で、市の休止案は、姫路
市が将来、都市交通とし
てモノレール方式を取る
場合も、差し支えはない
ということです。

市 そのままでは利用でき
ないと思います。第一に、
将来の都市交通としてのモ
ノレールは、単線往復では
通勤通学時などの大量輸送

の経常経費についても、運
行に最小限必要なところま
で削減しています。

には賛成できない。しかし
起債の関係もあって廃止で
きないので、運営の合理化
と経費の削減に努める。乗
客誘致を進めて増収を図り、
損失を最小限にとどめる。④
年間欠損と建設費は一般会
計で負担する。というこ
とでした。

市は、この答申に従つて、
市は休止案を取るわけ
です。

B モノレール対策につ
いては審議会が設けられ
、答申がありましたね。

市 モノレールの取り扱
いは、市民代表や学識経験
者から意見を聞き、その
答申に基づいて進めると
いうのが、市の基本方針で
す。このため、昭和四十二
年八月に「姫路市モノレ
ール対策審議会」を設置し、
モノレールの存廃を諮問し
ましたが、同年十月に審議
会から答申がありました。

その要点は、①あらゆる
角度から検討したが、存続
の含みを持って、休止
はすなわち休業で、モノレ
ール路線の廃止ではありませ
んから、将来、あらゆる点
から検討を重ね、現路線の活
用が必要となる場合は、それ
に合わせた措置を取
っているわけ
です。

B そうすると、都市交通
としてのモノレールの有用
性の問題と、現モノレール
をどうするかという赤字
の問題は全く別個の問題
で、市の休止案は、姫路
市が将来、都市交通とし
てモノレール方式を取る
場合も、差し支えはない
ということです。

市 そのままでは利用でき
ないと思います。第一に、
将来の都市交通としてのモ
ノレールは、単線往復では
通勤通学時などの大量輸送

の経常経費についても、運
行に最小限必要なところま
で削減しています。